

■ 提 言 ■

第 43 回日本小児感染症学会学術集会開催に向けて

岡山大学大学院小児医科学 森島恒雄

東日本大震災により、いまだ被災地では苦難の日々を過ごすことを余儀なくされています。東北地方は、わが国における小児感染症研究の拠点として輝かしい成果をあげてきました。平成以降だけでも、今野多助先生（東北大学，平成 5 年），鈴木仁先生（福島県立医科大学，平成 11 年），そして昨年の本学術集会を開催された土屋滋先生（東北大学）など，本学会が数多く開催され，現在まで日本の小児感染症学・免疫学をリードされてきました。われわれは今後も東北地方における小児感染症研究のさらなる発展を願い，第 43 回学術集会の開催に全力を注ぎたいと考えています。

学術集会は，本年 10 月 29～30 日に岡山市岡山コンベンションセンターにおいて開催いたします。テーマは「真のプロフェッショナルとは」としました。「新型インフルエンザ」や高度多剤耐性菌の浸淫，O111 および O104 による致命率の高い HUS の出現，多くの新しいワクチンの登場など，この分野で次々に生じる新たな課題は，われわれが小児感染症の「プロフェッショナル」として診療・教育・研究に立ち向かうことを要求しています。一方，感染症は小児科診療のなかで最も

普遍的な疾患でもあります。この「高度な専門性の追求」と「普遍性」のバランスが重要であると考える，このテーマを選びました。

特別講演は北海道大学 喜田宏教授に「鳥，豚そしてヒトのインフルエンザ」と題して現在の世界のインフルエンザの動向を概説いただくことにしました。シンポジウムは「多剤耐性菌の現状」，「急性脳炎・脳症」，「B 型肝炎の現状」を選びました。教育講演シリーズの 10 演題は，それぞれ最新かつ最先端の情報をまとめていただけることと思います。また，福島医科大学小児科 細矢教授に「東日本大震災と小児医療」について，緊急に「提言」をまとめていただけることになりました。

私が小児感染症，特に重症ウイルス感染症の診療・教育・研究に携わってから 35 年になります。その間，新たな難問が次から次へと現れ，その解決に苦闘してきました。「まだまだプロフェッショナルのゴールははるか先」というのが正直な感想です。この学術集会が若い先生方にとって，これから小児感染症のプロとして活躍される一助になれば幸いです。会員の皆様のお越しをお待ちしています。

* * *